

説教余滴、2017年11月26日、ドロシー・ロー・ノルト、

前主日の当欄に、『子供は親の鏡』と題された詩をご紹介しました。教えてくださった深町先生は、青山学院院長から東洋英和女学院院長。この夏限りで院長を退かれました。青山学院当時は、附属幼稚園園長も兼務しておられました。先生は、東京神学大学出身の牧師でいらっしゃいます。

教会の牧師職を辞して、青山学院宗教部長に就任される頃だったでしょうか、こんなことを言われました。「僕は牧師であり、教会での仕事を続けたい。でもねー、学校でもやりたいことがあるんだよ」。有能で誠実な先生ならではの悩みを垣間見た一瞬でした。

この詩を書いたドロシー・ロー・ノルト博士、Dorothy Law Nolteは、アメリカ・ロサンゼルス出身1924年1月12日生まれ、ミネソタ州立大学卒。40代の終わりに英国国立聖職大学で博士号取得。2005年11月、家族に見守られながら永眠。

平成17年（2005年）2月、皇太子殿下は、45歳誕生日会見でドロシー・ロー・ノルト（Dorothy Law Nolte）女史の詩を朗読されました。その前置きのように、次のように語られました。

「愛子の養育方針ですが、愛子にはどのような立場に将来なるにせよ、一人の人間として立派に育ててほしいと願っております。3歳という年齢は今後の成長過程でも大切な時期に差し掛かってきていると思います。愛子の名前のおり、人を愛し、そして人からも愛される人間に育ててほしいと思います。それには、私たちが愛情を込めて育ててあげることが大切です。つい最近、ある詩に出会いました。それは、ドロシー・ロー・ノルトというアメリカの家庭教育学者の作った「子ども」という詩で、スウェーデンの中学校の社会科の教科書に収録されております。